

# 妊娠期・乳幼児期

妊婦さんのほろ酔いは  
赤ちゃんの泥酔

妊娠中や授乳期の女性は、お酒を飲んではいけないことを知っていますか？



どんな影響が出るのかしら？



# 妊娠期・乳幼児期



- 妊娠している女性が飲酒するとおなかの赤ちゃんには深刻な影響があります。お母さんがほろ酔いでも、赤ちゃんは泥酔状態です
- 幼い子どもからは、アルコールを分解できません。命に関わることもあります。間違っって口にしてしまう環境を作らないことが、周囲の大人の役割です
- 今、日本では、特に女性のアルコール依存症が急増中です  
抜け出せなくなるほど酒に依存する前に、じっくりと自分自身の内面に向き合う時間を作りましょう

# TOO YOUNG TO DRINK

## <飲むには早すぎる>

もし妊娠している女性が飲酒すると  
おなかの赤ちゃんも  
飲酒することになります!  
アルコールは赤ちゃんには有害です  
飲酒には早すぎるのです!

- 妊娠中の飲酒は、胎児に対して、生涯にわたる障害を生じさせる可能性があります。それは、胎児性アルコール・スペクトラム障害（FASD）と呼ばれます。アルコールは、胎児の脳、心臓、目、他の臓器を痛めるおそれがあるのです
- FASDをもって生まれた子どもたちは、学習、行動のコントロール、友だちをつくることに苦労するおそれがあります
- FASDは100%予防が可能です。妊娠中は、酒無しで過ごしましょう

国際FASD啓発キャンペーン

TOO  
YOUNG  
TO  
DRINK



妊娠中の飲酒は、胎児に対して、生涯にわたる障害を生じさせる可能性があります。

胎児性アルコール・スペクトラム障害（FASD）は、胎児の脳、心臓、目、他の臓器を痛めるおそれがあるのです。

FASDは100%予防が可能です。妊娠中は、酒無しで過ごしましょう。

アルコールは、胎児の脳、心臓、目、他の臓器を痛めるおそれがあるのです。

FASDをもって生まれた子どもたちは、学習、行動のコントロール、友だちをつくることに苦労するおそれがあります。

胎児性アルコール・スペクトラム障害（FASD）は、胎児の脳、心臓、目、他の臓器を痛めるおそれがあるのです。

# 子どものアルコール誤飲

(日本中毒情報センター)

- 5歳以上では、フルーツ風味のアルコール飲料をジュースと間違えて飲むという事故が少なくありません
- 正月の準備で忙しい時に、日本酒とお湯を間違えてミルクを作って乳児に飲ませた事故があります

- 最近では、乳幼児を連れて居酒屋に夫婦で出かける家族が増えています。幼児の誤飲事故が起こる危険性が高まります



→ 酔った大人達のコミュニケーションを子ども達に見せることの影響についても考えなければいけません！

# あっ!それはジュースではありません

- ・ 清涼飲料水のようにCMされるお酒
- ・ ウイスキーボンボン      ・ ブランデーケーキ

→ 急性アルコール中毒は、子供の生死にかかわる場面です

※ノンアルコールは、大人のための飲料です

子どもはアルコールを分解できるからだではありません。間違っ  
て口にしてしまう環境を作らないことが、周囲の大人の役割です。





# 女性のリスク



急性アルコール中毒  
のリスクが高い

飲酒量と乳がんの  
発生リスクは比例する

肝臓病や、アルコール  
依存症になりやすい



男性より体重が少なく、脂肪分が多いため、血中アルコール濃度が上がり分解にも時間がかかります

妊娠中の飲酒は胎児  
に悪影響をおよぼす

酔わせて、レイプする  
事件も起きている

# 飲酒は、女性の体に負担をかける

【多量飲酒の継続によるアルコール依存症の平均発症年齢は？】



女性のアルコール依存症の発症年齢は、男性よりも20年も早いといわれます

【多量飲酒の継続によるアルコール性肝硬変への移行年数は？】



飲み過ぎが続くと、男性より8年も早く肝硬変になります





つまり、女性はアルコール依存症になりやすく、重症化しやすいということ？

そのとおりです。

- 1997～2007年までの10年間に全国11の専門治療病院で行った調査によると、アルコール依存症の患者数は、全体で2119人⇒2614人と約23%増加しています
- そのうち女性は、318人⇒486人と約53%増加しています。
- 20～30代では、アルコール依存症の女性の7～8割以上の比率で摂食障害を合併しています

なかなか相談できずに孤立感を抱いている方が多い実態もあります

